

原発事故被害者 相双の会

連絡先

國分富夫（会長）

住所

〒976-0052

福島県相馬市黒木字迎畑 91-12

電話 090 (2364) 3613

メール kokubunpisu@gmail.com

事務局

鈴木宏孝 090-2909-6133（浪江）

関根憲一 090-4889-3726（富岡）

板倉好幸 090-9534-5657（南相馬）

昨年10月の19号台風で福島に甚大な被害

昨年10月の大雨の台風で川は氾濫・決壊、山は土砂崩れが無数に起きました。あれから3か月過ぎるが復旧できないところが多くあります。その中で心配されるのは放射性物質が流出し拡散されたのではないかと言う事です。

| 測定地 | 値 Bq/kg | 測定地 | 値 Bq/kg |
|---------------|-----------|-------------|----------|
| 浪江町立野 | 5,365.40 | 小高区川房中里宅西側 | 4,608.90 |
| 浪江町立野荒屋敷（住宅隣） | 445.4 | 小高区川房四ツ栗 | 4,224.50 |
| 南相馬市原町区片倉 | 476.9 | 小高区川房西畑杉林入口 | 19,099 |
| 小高区川房林道入口 | 11,226.50 | 小高区金谷南釘野 | 8,305.80 |
| 小高区川房の川流域の山入口 | 42,958.02 | 小高区金谷小畑入口 | 9,462.90 |

そこで山から流れ出した土壌を測定したら

これまで検出されなかった路上などに溜まった土壌を測定したら異常なほど放射能が検出されました。

このように500ベクレル、高いところで43,000ベクレルありました。ほんの一部の汚染地域を測定しただけです。大半は川に流出したと考えられますが、双葉郡全体を調査、測定をしたら誰でも大変な事である事が想像できると思います。

放射能が拡散された訳ですから、国、

電力会社は責任をもって対策すべきです。これだけは知って頂きたい事は、測定にあたり高そうな場所を探して採取した訳ではなく、測ったらこうだったのです。原発事故前に戻るには200年から300年ということです。

小高区川房流域数値は42,958.02Bqでした。40,000Bqが30年で20,000Bqへ、60年で10,000Bqへ、90年で5,000Bqへ……300年で39Bqへと減ってゆきます。原発事故前は10~20Bqだったのですから

とんでもない数値です。
これが原発事故なのです。

乾燥して風の吹く時はマスクで対策を

台風で大量に平地や河川敷に流出した汚染土壌が道路や畑などに残っています。それが乾燥すれば特に風の際は粉塵となって舞い上がります。乾燥された土壌の測定結果、水分の残った未乾燥の土壌の線量 (Bq) の方が高いことが判明しました。口、鼻から入れば内部被ばくしますから要注意です。これからが本番の季節風が吹き荒れます。彼岸となれば墓掃除、墓参りと故郷に来る機会が多くなるでしょうから、マスク使用をお勧めします。

参考に乾燥しない (水分含む) 土壌と乾燥した土壌の測定結果を記載しました。

川房西畑、杉林入口

未乾燥 9,019.5 Bq … 乾燥 19,097 Bq

川房四ツ栗 96

未乾燥 3,077.8 … 乾燥 4,224 Bq

川房西畑 (畑の中)

未乾燥 4,735.8 Bq … 乾燥 8,070.9 Bq

だから粉塵は危険です。特に若い方、子どもは注意が必要です。

放射能は原発などから屋外へ出てし

まった場合取り除くことは到底できないので自然消滅を待つ他ないのです。除染、除染と言いますが除染で取り除くことはできません。

除染という言葉は「汚れ」を除くという意味ですが、原子力の場合の「汚れ」は放射性物質による汚れであり、放射能を消すことはできないので、言葉の本来の意味で、除染はできません。

国民の命と健康を脅かす放射能を避けることはできない環境にしてしまった国、電力資本を許すことはできませんが、自ら管理を怠る事ができない世の中になってしまいました。

白血病患者数は福島が多い

各都道府県の国公立医師会によると、昨年の4月から10月にかけて「白血病」と診断された患者数が一昨年の約7倍にのぼったことが判明したとのことです。原発事故との因果関係は不明としながらも不自然と思わざるを得ません。患者の80%が東北・関東で福島が最も患者が多いのです。

放射能というのはどんなに微量でもそれなりの危険があるということを覚悟しなければいけないのであって、安全とか、安心とか、大丈夫とか、そういう事はあり得ないと考えるのが妥当でしょう。



↑ 聖火リレーコースの線量はかる市民 飯館村

↓ 8000 Bq以下の土壌などを詰め込んだフレコンバッグとセメント欠片が野晒し状態



↑ 広大にひろがる未除染の山林。大雨のたびに放射能が流れ下ってくる。

除染土「再利用」は許されない

8000 Bq以下なら「再生利用」？

放射性物質は除染をいくら繰り返しても拭いきれない事は、事故後9年で明らかになった。地域住民も拭いきれない事が分かってきた。除染土壌が2200万立方メートル…これは東京ドーム約18杯分にもなる。これも増え続けている。

仮置き場は1,328箇所あったが、中間貯蔵施設に運び込まれたから大分減りはした。しかし、そこにも入り切れない事は当初から分かっていた。現時点では中間貯蔵施設計画地の7割程度が確保できている。

30年後に県外の最終処分場に搬出するという法律に裏付けられた約束があるが、まだ決まっていない。受け入れる自治体などあると考えられない。不可能に近い事である。

今となって考えられるのは、「最終処分場」というのは中間貯蔵施設建設の大義名分であった。そうでなければ反発を受けるだけになった。

除染土壌の行き先がなくなったので、特別な法律を作り8000 Bq/kg以下を一般廃棄物として処分可能にした。通常原発から出る廃棄物は一般の廃棄物処分場では扱えないが、一定の基準(100ベクレル)以下は市場流通が可能となっている。たとえばコンクリートや鉄筋・鉄骨などの金属がこの対象だ。

これにたいして基準8000ベクレルは緩すぎ、100ベクレルで統一しないと二重基準になると批判が出ていた。環境省は、8000ベクレルは「処分できる基準」、100ベクレルは「再利用の基準」と説明してきた。ところが、処分場の確保の困難が見えてくるや、8000ベクレル以下を公

共事業への「再利用基準」とした。環境省は、南相馬小高区において「再生利用実証事業」を、飯館村においては農地としての実証事業を行い、再生利用に向けて「手引き」を作成する方針である。

全国に放射能をばらまくつもりか

第一原発の事故で自然界にはない放射性セシウムが放出され、中でも長く残存する放射性セシウム137が生物に影響する。セシウム137は原発事故前の値に戻るには200~300年と言われるから今に生きる私たちにはその悪影響の結果は確認できない。それだけ後世に負担がかかることは確実である。原発を推進した国や電力会社は無責任というより他ない。

大量の除染土の行き場がなくなり、「8000 Bq以下を一般廃棄物とする」という法律をつくり全国の公共事業に使用する、放射能のバラマキである。

放射能はいくら低線量であっても危険であり、安全であるという値はない。それでも国民を誤魔化し実行しようとする根拠は何なのか。狭い日本に52基の原発を稼働した。それに建設中でもある。いずれ廃炉原発がどんどん出てくる。このまま進めば必ず事故が起きる。最終処分場が必要であるが、日本のような軟弱な国土でできるのか。核兵器の原料となるプルトニウムもあり半減期2億4千年である。

それなら全国にばら蒔いてしまう事例をつくりたいのか？国民の命と健康、安全・安心を第一に考えるのが当たり前と思うのだがどうでしょうか？世界中見ても日本ほど国民を犠牲にして安全安心を度外視する国はないだろう。

オリンピックのために、何でもありか

あきれた安倍首相の施政方針演説

1月20日の安倍総理の施政方針演説にはあきれた。聖火が走り出すスタート地点は福島の新ヴィレッジ（広野町と楡葉町）だと胸を張った。新ヴィレッジは今「我が国最大のサッカーの聖地に生まれ変わり、子どもたちの笑顔であふれている」そうだ。

昨年4月に公式試合が1回あったことと今年4月に「ももクロ」コンサートとかいう話は耳にしたが「聖地」になったり「子供の笑顔であふれている」という話は地元では聞いたことがない。いずれにせよ周辺に居住してる者にはほとんど関係ない事だ。無理な避難解除と帰還奨励だから子供たちは帰れない。楡葉町は避難解除されてからやっと3年、町には二つの小学校と一つの中学があったが、今は3校が小中合体してやっと少数の学級にして成り立っている。

演説でもっとあきれたのは、安倍首相が聖火リレーに関連して「本年3月JR常磐線が全線開通。これに合わせ双葉町、大熊町、富岡町の帰還困難区域における避難指示の一部解除に向け準備を進めます」と胸を張ったことだ。新ヴィレッジから車で数分の常磐自動車道を少し北上すると単車は走行禁止だ。並行する国道6号は十数キロ先から車外にでられないどころか車の窓も開けられない。そこで常磐線を走らせたり聖火リレーをしようというのが無理なのだ。

「アンダーコントロール」はどうした？

ところがベッドから人間の足がはみ出したら、足の方を切り落とせといわんばかりに、帰還困難区域だった双葉、大熊、富岡の一部の避難解除し常磐線を全線開通するという。

1月17日に安倍総理が出席して政府の原子力災害対策本部がひらかれ、そこで3月に双葉、大熊、富岡の一部と、帰還困難区域の常磐線の駅、双葉、大野、夜の森と周辺道路も含め避難指示を解除すると決めた

そうだ。その席でも安倍総理は3月26日に出発する五輪聖火リレーで「浜通り地域の利便性が向上することから、多くの方々に訪れてもらいたい」と述べた。

そしたら1月21日に、こんどは福島県が、3月に一部避難解除されるのだから双葉町を聖火リレールートに組み込むようオリンピック東京大会組織委員会に要請すると決めた。これで避難指示が出された11市町村すべてが聖火リレーコースになるらしい。国も県も一部町長も一体となった出来レースだ。

安倍首相は2013年にオリンピック招致演説で「汚染水はアンダーコントロール」と大見得切った。それを恥ずかしげもなく政府は海洋放出を検討している。そして今度はオリンピックを利用してもっと悪質な事故被害の隠ぺいをするのだ。

心配はオリンピック後

普段は人気のない地域にせめて聖火リレーくらいにぎやかにという声もあるが、危険なコースを大会組織委員会は認めるのだろうか。一部だけ除染しても台風が来ればだいなしになる。せめて「年1^m Sv」基準を大きく超えるコースはランナーに防護服を着用させるべきだ。遠方から大勢の観客を動員してはいけない。子どもや若い女性を沿道にならべて「復興」の人柱の様にあつかうな。

政府は「年1^m Sv」以下という基準を「20^m Sv」以下にした。今回の措置でこの基準すら事実上守られなくなるのでは。オリンピック後は続々と避難解除がされ、なお5万人以上の避難者へは帰還の強制とさまざまな補助が打ち切られ、世間の冷たいまなざしがあびせられ、家族の分断が一層すすむことが一番心配だ。

「復興五輪」の掛け声の中で何が進んでいるのか、みつめてほしい。